WALDRICHSIEGEN

COMMUNICATIONS

2013年春発行

販売から改造まで長期に渡る優れたサービス

重工業用工作機械業界は、隔年4月に北京で開催される中国国際工作機械見本市に注目致します。CIMTは業界内で最も重要な4つの見本市の1つで間もなく開催されます。2011年、中国は重工業用工作機械業界において売上の37％を占める大変重要なマーケットです。

「近年の中国市場において幾つかのトレンドがありますが、その一つに高品質製品を生産する為の様々な努力があげられます」とWaldrich-Siegenのヴァイス・ディトマール前副社長（現UnionChemnitz社長）は述べています。「一方で、人件費の上昇により生産性を向上させることが競争力を維持するためのプレッシャーとなっています。それに加えて、ミリングマシンと旋盤のような別々のプロセスが一つの重工業用工作機械に統合されていることに気づきました。」とヴィッツ・ステファン博士新社長が付け加え、「これらの開発は、当然の結果で工作機械の需要が大幅に増加する中、中国企業はそれらを満たすためにWaldrichSiegenの重工業用工作機械に大変注目しています。

中国市場における我々の実績はこれらトレンドを取り込んできた事に対する裏付けで、昨年は東方重機有限公司よりガントリー設計用に大型5面加工機ProfiMillを受注致しました。最近ですがProfiTurnは東方タービン有限公司（2ページ参照）に据付けられ、2月より上海電気（SMTW）にてProfiMillの試運転が実施されます。さらに済南ディーゼルエンジン有限公司のProfiMillの2台がBurbachのWaldrichSiegen工場（ドイツ）で、出荷前立会い検査に合格し出荷へと準備が進められております。

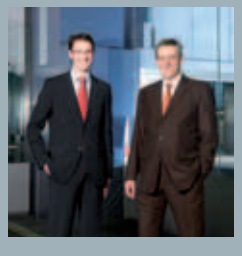
マシンの品質、精度、効率はもとより、中国市場に提供している優れたサービスがWaldrichSiegenの成功の理由の一つであるとヴィッツ・ステファン博士新福社長は考えています。「WaldrichSiegenは中国国内の社員が販売から近代化までをマシンのライフサイクルを通じて、対応しています。嘉興に生産工場、北京に営業所があり、その他にも顧客が機械研修などでドイツを訪れた時の対応として中国人従業員を雇用しています」。

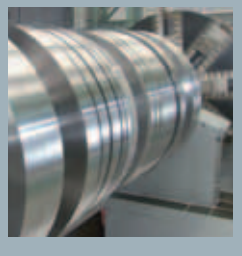
更にWaldrichSiegenは中国の顧客と接する機会を増やす為、北京で開催されるCIMTに例年通り出展します。今回は姉妹会社であるUnionChemnitzと共に出展致します。2011年にこの横型中繰盤のメーカーであるUnion-Chemnitzを傘下に迎えたことにより、HerkulesGroupはさらに幅広い商品を提供できるようになりました。「顧客の反応は上々で、現在我々は門型ミリングマシンに興味を持っているお客様に新たに中繰盤も提供できるといったようにシステムを一元供給することが可能です」とヴァイス・ディトマール社長は述べています。

中国顧客の最大関心事に応える為、2013年SMTWと済南ディーゼルエンジン有限公司との共同企画に合わせWaldrichSiegenは技術セミナーを開催します。最新の技術革新を紹介した後、セミナーではWaldrichSiegenのProfiMillのアプリケーションに焦点を当てた内容となっております。またセミナーではお客様の実機を用いて経験について語って戴くライブショーも予定しております」とヴィッツ・ステファン博士は述べています。

この経験から中国における当社の顧客は、彼らの生産性と製品の品質を向上させる方法を学び、WaldrichSiegenは中国市場におけるニーズの変化をオンタイムで捉え、ニーズに合わせた装置の最適化を実現することが可能となります。

正確かつ効率的・・・WaldrichSiegen工場にて。済南ディーゼルエンジン有限公司でのProfiMill出荷前立会い検査。タンス・テスト。





- 新しいトップ
- 3倍の精度
- 注文通りのエンジンのための注文通りのコンセプト
- 日本市場向け新世代EDTマシン
- 誇りある思い出と経験

社説 | Christoph Thoma

ヴァイス・ディトマール前副社長は約10年前から私と一緒に会社を経営してまいりました。この間、彼は先見の明を持ち、責任感に溢れた行動で経営に取組んでまいりました。2013年1月で、WaldrichSiegen福社長ヴァイス・ディトマール前副社長は社長を退任し、彼の後継者としてこれまで機械設計部の責任者であるヴィッツ・ステファン博士が後任者となります。

初めてヴァイス・ディトマール前副社長と後任について話をした時、私はできるだけその件を先送りしたいと思ったほどです。ヴァイス前副社長は2004年以来、戦略的ビジョンと多くのエネルギーを持ち会社経営に携わってまいりました。その成功と自信から従業員は彼に信頼を寄せ、その豊富なノウハウとメリットを享受してまいりました。

WaldrichSiegenで過ごした時間の間、ヴァイス・ディトマール前副社長は常に信頼できるパートナーでした。私達の顧客にとっても、私の個人的なパートナーとしてもでうす。共同経営者として、私たちは完全に一致はしなかったが、常に彼の建設的な態度のために、必ず共通点を見つけることができました。ヴァイス・ディトマール前副社長は根っからWaldrichSiegenの人間ですが、一方でHerkulesGroupにとっても大変興味をもった実業家です。

彼が慎重に後継者を選び、その過程で新しい社長としてヴィッツ・ステファン博士を推薦しました。私は喜んでこの提案に同意しました。私は技術的な知識が豊富で有能で忠実なマネージャーとしてヴィッツ博士を高く評価しており、また顧客も社員の両方が彼を完全に信頼しているからです。

この決定が容易になったもう1つの理由にヴィッツ博士の能力を引き出すためにヴァイス前副社長が継続して彼をサポートするとの約束があります。今後ヴァイス前副社長は代理権を持つHerkulesGroupの副社長兼UnionChemnitz社長として業務に付きます。

このようにして我々はあらゆる面において企業の継続性を保証する解決策を見つけ、WaldrichSiegenは明るい未来に向かって出発します。

新しいトップ

2013年1月、今まで機械エンジニアリングのマネージャーだったヴィッツ・ステファン博士は、WaldrichSiegenの新社長に就任しました。2004年からトーマ・クリストフ会長と一緒に会社を経営していたヴァイス・ディトマール前副社長と交代します。

「ヴァイス副社長はなぜ今副社長を辞任するのですか？」

ヴァイス副社長：「私はトーマ会長と協議の上で決断を下しました。ヴィッツ博士はこれまでの3年間WaldrichSiegenで働いて、会社を非常によく知っています。今なら、私はWitt博士をサポートし、構造化された方法で自分のタスクを引き継ぐことができます。我々は、これが適切なタイミングで適切な解決策であると一致しました」。

「なぜあなたは後継者としてヴィッツ博士を推薦したのですか？」

ヴァイス副社長：「彼はドイツのアーヘンにあるRWTH工科大学の工作機械の研究室で学び、そこで彼は、工作機械技術研究所の機械工学部門のマネージャーを務めていました。この経験は彼を優秀な工作機械の専門家に育てあげました。また彼の性格は社長としての技術的な能力と同じくらい重要です。当社の社員は彼を信頼し、心から私たちの決定に同意しています。

「ヴィッツ博士。ヴァイス副社長はこれからも自身の素晴らしい経験であなたを支援し、助言します。あなたは彼から何を学ぶことができますか？」

ヴィッツ博士：「私は構造化された業務の引継が非常に重要だと思います。機械エンジニアリングのマネージャーとしての私のこれまでの仕事で詳しく機械を学ぶことができたし、会社内のプロセスもよく理解しています。ヴァス副社長は特に販売に関して多くの経験を有する方ですので、この面において彼のサポートを受けられことは大変喜ばしことです。

「あなたは、業界の経済闘争の時代に社長に就任されます。WaldrichSiegenの将来のためにどんな戦略を、準備しなければなりませんか？」

ヴィッツ博士：「我々は、少数精鋭で開発のチャンスをつかみ、既存の製品を活用しますが我々は全く新たな製品開発をしています。例えば立旋盤です。したがって、私たちは、1つのソースから幅広い製品を提供することができます。ドイツのWaldrich-Siegenで作られた高品質•高性能の機械の概念は175年の間でずっと守られてきました。

「ヴァイス前社長：未来から過去へ。WaldrichSiegenでのあなたの時間はどんなものでしたか？」

ヴァイス前社長：「非常に興味深いだけでなく、非常に挑戦的で良い時間でした。私たちは多くのことを達成することができたと思います。WaldrichSiegenとUnionChemnitzの関係はうまく位置づけされていると思います。トーマ会長と私は、WaldrichSiegenを健全な財務基盤に乗せ、技術、コスト意識や顧客の接遇に関する良好なバランスを達成してまいりました。私は、これは良い組み合わせだと思っていますし、今日WaldrichSiegenが存在する理由だと思います。そして、我々は適切な時に後継者を選んだと信じています。
我々は、この世代から秩序を持って次の世代に行くことができます。

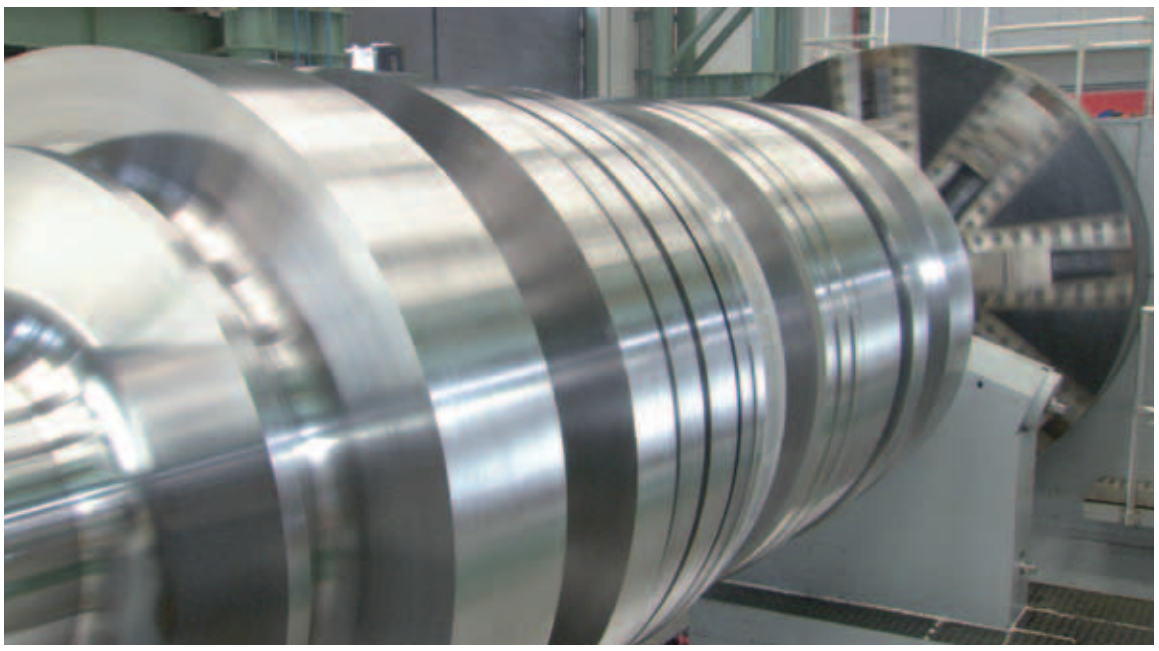
後任のStephan Witt博士(左)Dietmar Weiß氏(右)WaldrichSiegenの社長

「ヴァイス副社長、ヴィッツ博士。インタビューありがとうございました。」

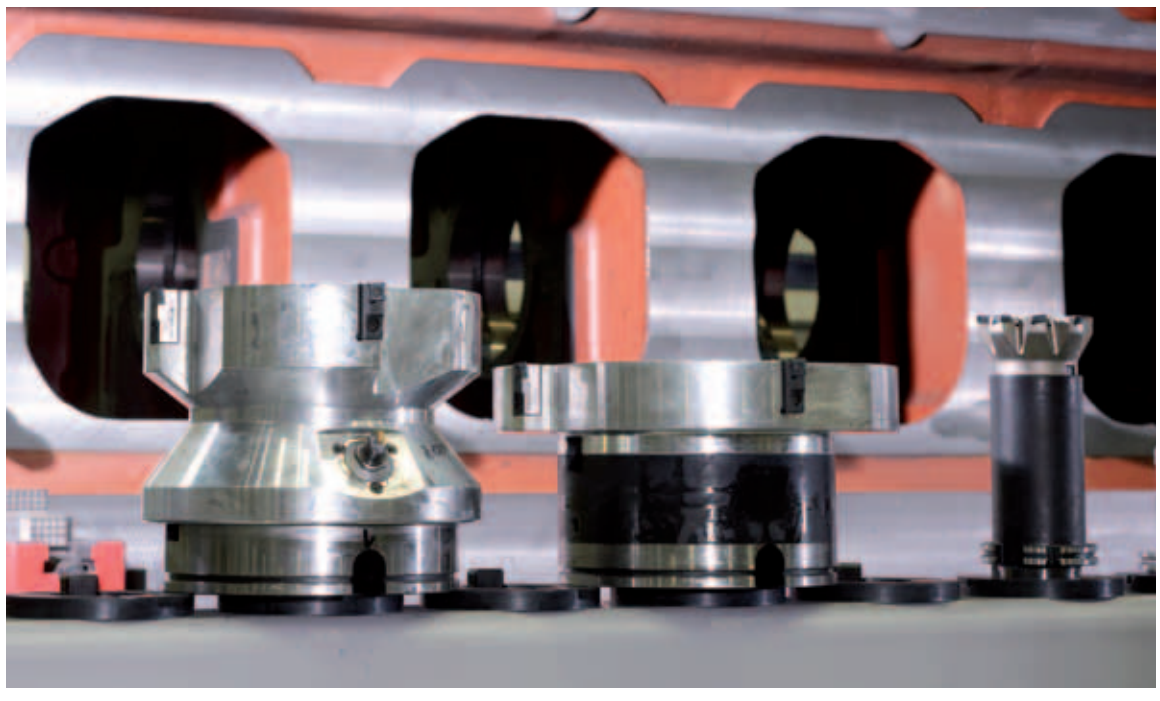
3倍の精度

WaldrichSiegenと中国最大のタービンメーカー東方タービン有限公司とは長期に渡るパートナーです。ProfiTurnは、2012年に東方タービン有限公司より委託された時は中国の会社にとって3台目のWaldrichSiegen旋盤でした。1989年に東方はWaldrich-Siegenの最初の旋盤を、2008年に3台目の旋盤を注文しました。両方のマシンは試運転以来動き続け顧客を完全に満足させています。どちらも最高の精度で稼働しています。
マシンの素晴らしい品質と生産性に基づいて、東方タービン有限公司は新しい旋盤を検討する際、再びWaldrichSiegenを選びProfiTurn2500を注文致しました。150トン、直径2,500ミリ、高さ15,000ミリのタービンローターは最高の精度で加工されています。
ProfiTurnは東方タービン有限公司の新たな始まりの一部です。東方市の施設の大部分は2008年に四川省で起きた大地震で破壊されました。数百人の労働者がこの悲劇のために亡くなり、数千人が負傷しました。東方タービン有限公司はこの大参事後の2年以内に、生産拠点を汉王から徳陽市に移転し、WaldrichSiegenはProfiTurnの導入によって、東方タービン有限公司の成功に貢献できたことを誇りに思っています。

Stefan Elze


WaldrichSiegenのProfiTurnは、品質と精度を表しています。

注文通りのエンジンのための注文通りのコンセプト



JDECのProfiMillには完全に自動化されたアグレゲートとツールチェンジャーが装備。

ProfiMillシリーズの門型ミリングマシンは精度とパフォーマンスの面で新しい基準を築いたことを世界中の顧客が確信しました。わずか数年後の現在、WaldrichSiegenは再設計されたProfiMillを全ての重要産業（工作機械業界、電力工学産業、エンジンの製造業と一般機械建設等）において示すことができます。

一例としては、済南ディーゼルエンジン有限公司です（JDEC）。彼らはガスエンジンの加工でWaldrichSiegenのProfiMillを導入しています。2台のProfiMillは2013年の晩夏にJDECに据付けられる予定です。この2台はツールやクランプ装置を搭載し完全な加工方法やプログラムの開発も含んでいます。

エンジンブロックの加工は、頻繁にアクセスすることが困難であるエリアを含んでいるので、装置には拡張性のある特別なコンポーネントが装備されています。8個のミーリングヘッドは完全に自動化された集合チェンジャによってスムーズに交換され、192個のツールスペースを有する自動ツール交換装置も一体化されました。

JDECの現場での試運転を最小限に短縮するために、2012年2013年冬にドイツのBurbachにあるWaldrichSiegenの製造工場で出荷前立会検査が行われました。製品の品質と精度をチェックした後、2つのMAN 32 V型エンジンと2つのエンジンケースはJDECによって加工され、すべての要求精度に準拠していることが確認されました。JDECにおける新たな生産センターピースとなるProfiMillは、最高の品質と効率性を持ってワークを加工致します。契約に基づく全試験項目を完了し大変満足戴きました。

Hubert Schuhen

SMTW用ProfiMill
上海電気（SMTW）もProfiMillを導入しています。ProfiMillと、SMTWは研削盤用のベッドを生成します。詳細については次回のWaldrichSiegenニュースレターにてお知らせ致します。

日本市場向け新世代EDTマシン

WaldrichSiegen は2013年1月に“世界一の鉄鋼メーカー“を目指す日本の鉄鋼メーカーより革新的な技術を有するProfiTex60シリーズを受注しました。

このEDTマシンの持つ最先端のテクスチャリング技術より彼らのロールのショップは品質と生産性をさらに向上させることができます。ProfiTexの導入により毎月約200本のロールを処理する予定です。

当鉄鋼メーカーはすでに他の3つの工場でWaldrichSiegenのテクスチャリング技術を採用しています。これらの実績に基づき、４つ目の工場で鋼管、自動車産業向けの高品質の鉄棒と鋼鈑製品を生産しています。

日本の市場では再注文の受注が重要：国際レベルでの競争力を維持するために、日本の鉄鋼業界では表面加工への要求が高まっています。取引先である三井物産プラントシステム株式会社との協力によりWaldrichSiegenは日本の鋼板加工分野においてこれまで高価で信頼性の低いショットブラストマシンからEDTによるテクスチュアリング技術へと置き換わりました。

新たなProfiTexを国内で販売したことで、WaldrichSiegenはマーケットリーダーとしての地位を確信しました。ProfiTex60Sは、日本市場に向けた初のコンパクトEDTのマシンです。

WaldrichSiegenはロール研削盤の改造及びレトロフィット市場向けに山九株式会社との協力体制を確立しました。ロール研削盤の改造はWaldrichSiegenが品質におけるリーダーであることを証明する新たな市場です。

Jan Babatz

当鉄鋼メーカーはProfiTex60Sで月に200本のロール加工を予定しています。

50年後の最先端

50年間確かな加工してからこの門型ミリングマシンがまた世界中で最も近代的で強力な装置の一つなりました。

1962年WaldrichSiegenがBurbachの生産拠点で門型ミリングマシンを注文した時、装置はその機種中で最も近代的な装置で後の18年間は正確に稼働しました。WaldrichSiegenがSiegenからドイツのBurbachに生産拠点を移転した後、当装置はBad Laaspheにある協力会社のJung Großmechanik GmbH & Co.KGに売却され、そこで30年使用されております。

その後、Jungは門型ミリングマシンを近代化することに決め、WaldrichSiegenは、近代化に向け説得力のあるコンセプトを開発しました。完全な機械整備、静圧ガイドウェイの導入、新CNC制御装置、ProfiMillシリーズのミーリングヘッドを完全統合しました。

近代化された機械の試運転は2012年に実施されました。1962年に最先端だったマシンはライフサイクルが一周してもとに戻ったとようでうすが現在でも最も近代的で強力な装置の一つとして生まれ変わりました。オーダーメイドの近代化によりJungは今後何十年も、効率的かつ正確な委託製造のためにマシンを使用することが可能となりました。

Hubert Schuhen

誇りある思い出と経験

一番思い出深い出来事について彼に尋ねた時、Karl-Hermann Kolb曰く「私は据え付け時に韓国で台風に遭い10秒以内で私の車は激流に飲まれ姿を消すなか私は車から逃げ出しましたと語る」

4人の男の話はこれほど劇的ではありませんが、彼らはWaldrich-Siegenでの非常に個人的な思い出話を語ってくれました。Rolf Bäumner（マシンフィッター）、Bernhard Gabriel（設計エンジニアーフライス盤）、Karl-Hermann Kolb（電気試運転の責任者）、Rudolf Schäfer（設計エンジニアー旋盤）は1963年4月1日にWaldrichSiegenで研修を開始しました。今、彼らはWaldrich-Siegenにおける勤続50周年を祝っています。彼らは長い仕事人生といくつかの誇らしい瞬間を振り返ります。

Rudolf Schäferの最大の自慢は、彼が設計したクランクシャフトの旋盤です。「それらの装置の一つはプロにより撮影されたものだ」と彼は言います。「私はこのビデオを家に持っていて、時々お客さんに見せます。」同僚の設計エンジニアBernhard Gabrielが付け加えます。「あなたは自分が組み立てた機械を見ると、自分の功績を誇りに思うでしょう。たとえばProfiMillです。機械が正確かつ効率的に動くことを誇りに思うでしょう。」

企業、技術、プロセスはもちろん、それらの多くは1963年以降に変更されました。Rolf Bäumner（マシンフィッター）は言います。「設計と電気設備の分野で多くの変化がありました。しかし、あなたが機械を見れば、いくつかのものは同じだと気付くでしょう。私たちはその当時多くのプロセスを手動で行ったものです。」

それらの年月で最も重要なのはWaldrichSiegenでの優れた作業環境でした。同僚の一部は、新しい職場や仕事に移りました。Rolf Bäumnerは転職しようと思ったことは一度もありません。「私は決して思わなかった。我々はここでよくしてもらいました。」

今、彼と3人の同僚は、退職後の第二の人生を楽しみにしています。彼らはまだ大きな計画を持っていません。彼らは、自分の家や庭の世話、ドロミテアルプスのハイキングに行ったり、自分の孫を連れて散歩に行きたいと思っています。彼らはこれから、大きな機械から人生の小さな喜びに目を向けます。

R. Bäumner, R. Schäfer, K.-H. Kolb と B. Gabrielは彼らの50周年を祝います。

トレーニングの終了

長い伝統のあるWaldrich-Siegenのトレーニングが無事終了し、後進に受け継がれました。Kelsey Jungwirthは2013年、全般的に優秀な成績でカッティングマシンのオペレータとしてのトレーニング過程を終えました。他の10人の研修生も同様に優秀な成績で試験に合格しました。Radoslaw Bochenek（フライス切削マシンオペレータ）、Florian Dietermann（エレクトロニクス技術者）、Sven-Oliver Jacob、（エレクトロニクス技術者）、Kevin-Jens Klaas、（工業メカニック）、Alexander Magarjan（メカトロニクス技術者）、Nico Schäfer、（産業機械工）、Timo Schlotter、（切削マシンオペレーター旋削盤）、Pascal Weinert、（メカトロニクス技術者）、Simon Fischer及びPaul Paskal（切削マシンオペレーターフライス盤）は2012年の夏に前倒しして試験を受け、トレーニングを終了しました。

WaldrichSiegenの経営陣および全ての従業員は、これらの優れた成果祝福致します。

EMO 2013

WaldrichSiegenは4月のCIMTの出展後、2013年9月16日～21日の期間ハノーバーで開催されるEMOに参加します。WaldrichSiegen、Union-Chemnitz、RSGetriebe（HerkulesGroupの三社）は、1つのブースで出展致します。社員一同、ハノーバーで皆様のお越しをお待ちしております！

Imprint

WaldrichSiegen Communications
Issue: Spring 2013

Publisher:
WaldrichSiegen
Werkzeugmaschinen GmbH
Daimlerstraße 24 I 57299 Burbach
Telephone +49 (0) 2736 493-02
Fax +49 (0) 2736 493-559

Responsible:
HerkulesGroup Corporate Communications

waldrich-siegen.de